

月刊・南ア・ニュース (2009 年 12 月)

在南ア日本国大使館

1. 内政関連

●ズマ政権の通信簿

(1)野党編

11 日、野党民主同盟 (DA) から内閣レポートカードが発表された。これは 2009 年度の各大臣のパフォーマンスに対する評価をまとめたもの。DA の評価が最も高かった閣僚はゴードン財務大臣で、10 ポイント中 8.5 ポイントを獲得、ファン・スカルクヴェイク観光大臣の 8 ポイント、パンドール科学技術大臣の 7.5 ポイントがそれに続いた。一方、最も評価が低かったのはムドゥラドラナ労働大臣、マイエンデ=シビヤ女性・青年・児童・身体障害者大臣で 2.5 ポイントに留まった。ズマ大統領のスコアは 3 ポイントで、ジレD A 党首は、『魅力としては 10 ポイント中 9 ポイントを獲得し人気はあるが、リーダーシップや憲法遵守に対する評価は 1 ポイントである。』と厳しい評価を下した。ちなみに閣僚全体の平均は 4.9 ポイントであった。

(2)メディア編

23 日、メール&ガーディアン紙は、同紙の年末恒例企画である現役閣僚の通信簿を発表。ズマ大統領は、様々な懸案についてその立場を知ることが難しいとして C 判定、就任後静かに仕事をこなしているモトランテ副大統領も C だった。他方、政府入札に関わる不正を防止するチームを立ち上げ、金融危機という難しい状況の中でバランスの取れた中期財政演説をおこなったことが評価されたゴードン財務大臣と、農民支援のデータベースを立ち上げ、南アを食糧輸入国から輸出国に巻き返したことが評価されたジョーマト・ピーターソン農業大臣が A 判定を受けた。数多くの公団公社を取り纏めるホーガン公共・企業大臣は B+ で三番手。一方、刑務所関係の汚職問題を抱えるマピサ=ヌカクラ矯正大臣、女性グループとの協議が十分ではないとされたマイエンデ=シビヤ女性・青年・児童・身体障害者大臣、公共バスシステム導入と運営に問題が見られるンデベレ運輸大臣、ズマ大統領が二度と裁判問題に関わらないですむよう、司法関係の要職をズマ大統領の支持者で固めようとしていると見られているラデベ法務・

憲法整備大臣、国内のスポーツ促進で成果を上げられていないストフィーレ・スポーツ・レクリエーション大臣が E 判定を受けている。

●エイズ治療の新時代幕開け

12 月 1 日の世界エイズ・デーに合わせ、ズマ大統領は HIV 患者に対する多くの新治療政策を発表した。これまで以上に多くの人々が治療を受けられるよう意図されており、妊娠中の女性や、結核患者、1 才未満の幼児などが体内免疫システムの強度に応じて、即治療を受けることが可能になっている。短期的には米国と共同で行われる模様で、米国政府はこの新政策に対し 1 億 2000 万ドルを援助、治療薬購入やサプライチェーンマネジメント等に対し資金が拠出されることになっている。

●シャバララ=ムシマング元保健大臣の逝去

16 日、肝臓移植による合併症でシャバララ=ムシマング元保健大臣が亡くなった。シャバララ=ムシマング元大臣は、長年アフリカ民族会議 (ANC) の闘士として、また政府閣僚として活動してきたが、ムベキ元大統領の時代から、南アの HIV/AIDS 政策を混迷に導いた責任者の一人として批判されていた。葬儀にはズマ大統領をはじめ南ア有力者が参列し、この中でズマ大統領は故人を批判するようなことはアフリカの文化にはないとし、自由で民主的な南アの国造り及び医療分野での同人の功績を弁護する発言を行った。

●マレマ VS 共産党 - 緊張収まらず -

ジュリアス・マレマ ANC 青年同盟総裁は、11 月に南ア共産党のクロニン事務局長について、我々には白人の救世主はいらないと批判していたため、共産党の党大会で多くのブーイングを受けた。ANC において質の異なる急進派を代表するマレマ総裁とクロニン事務局長の間では非難の応酬があり、緊張状態が続いている。

2. 外政関連

●ヌコアナ＝マシヤバネ大臣のキューバ訪問

1日から2日、ヌコアナ＝マシヤバネ国際関係・協力大臣は、セフラオ保健副大臣及びマシヤティール芸術・文化副大臣等とともにキューバを公式訪問した。訪問中マシヤバネ大臣はゴンザレス外務大臣代行と第6回二国間委員会の委員長を務め、カストロ大統領に表敬した他、カリカルテ貿易大臣とも会談をおこなった。マシヤバネ大臣は、ズマ大統領がカストロ大統領の招待に応じて2010年前半にキューバを訪問する可能性があることを示唆した。訪問中成果として取り上げられたのは、南ア・キューバ相互の貿易フェアの参加、環境問題における協力、映画産業における協力等であった。

●西サハラ人権状況への懸念

4日、南ア国際関係・協力省は、西サハラの人権状況につき懸念を表明する声明を発表した。この中で南ア政府は、西サハラの活動家がアルジェリアの難民キャンプの西サハラ地区出身の人間に接触したことでモロッコ政府により軍事裁判にかけられたこと、西サハラの人権活動家が自らの居住区を西サハラ地区と記入したことにより、入国を拒否されスペイン領に移送されたこと等の例をとって、モロッコ政府の対応を非難した。また、モハメッド6世が、西サハラ地区住民に対し「モロッコ人か否か、愛国者か反逆者か」と突きつける内容のスピーチを行ったことにも懸念を表明している。南ア政府は、西サハラ問題は民族自決権と植民地の解放に関わる問題であるとし、西サハラ地区に居住する人々の民族自決権の実現を長く支持している。

●ズマ大統領のザンビア公式訪問

7日から9日にかけて、ズマ大統領はザンビアを公式訪問した。ズマ大統領にはヌトゥリ夫人の他、ヌコアナ＝マシヤバネ国際関係・協力大臣、ディビス貿易・産業大臣、シヤバング鉱業大臣、ジョーマト・ピーターソン農業大臣、モツアレディ保健大臣、ピーターズ・エネルギー大臣、ソンジカ水・環境大臣、ヌジマンデ高等教育・訓練大臣等8名の閣僚、60名にのぼるビジネス関係者が同行した。バンダ大統領との会談では、二国間問題、地域問題の他、国連安保理改革やAU委員会の改革等の問題が取り上げられた。訪問中はエネルギーと鉱業に関する協定及び外交関係、

産業協力、保健、農業に関わる4つのMoUが署名された。ANCは反アパルトヘイト闘争時代、長らくルサカに本部を置いており、ズマ大統領のスピーチや共同コミュニケの中で、過去のザンビアの協力に対する謝意が述べられた。ズマ大統領は、アフリカ解放の闘士達のモニュメントにも訪れている。

●ナミビア大統領再選へのメッセージ

11月末にナミビアで行われた大統領選挙の結果、ポハンバ大統領が全体の75.25%の票を獲得し再選し、国民議会選挙でも、与党SWAPOが前回に続き3分の2の多数を獲得し圧勝した。新党RDPは議会で11%以上の票を獲得して野党第一党となった。これを受けて8日、ズマ大統領はポハンバ大統領の再選を祝い、既存の良好な二国間関係をより一層発展させていく旨を発表している。

3. 経済関連

●電力問題

11月30日、南ア電力公社(Eskom)はNERSA(National Energy Regulator of SA)に対して、この先3年間の電気料金値上げ率を当初の45%から35%へと減額申請した。当初の値上げ率に対しては、貧困層への影響とインフレへの懸念から批判が多かった。エコノミストは電気料金が高くなれば、鉱業部門等に深刻な結果をもたらすと警鐘をならしめている。Eskomは総額3850億ランドの発電量拡大プログラムを実現するため、電力料金値上げは避けられないとしている。Eskomは資金不足を解決するために、Kusile火力発電所建設費1420億ランドの30%を民間に売却することを検討している。これまでEskomは電気料金、ローン、政府支援に頼ってきた。

●電気料金値上げと経済成長

Eskomによる電気料金値上げ申請(この先3年間にわたり年率35%の値上げ)が承認された場合、この先3年で南アの経済成長は1.5%程度(2010年0.5%減、2011年0.7%減、2012年0.3%減)減少するであろうとBUSA(Business Unity South Africa)は警鐘をならしめている。BUSAは電気料金値上げによるインフレのほか、さらなる失業者の増加を懸念し、パーソンズBUSA副代表は「南ア経済は依然として脆弱なままである」と述べた。BUSAは2010年早々にも中銀が政策金利を再び切り下げることへの期待している。ある

経済研究所の調査によると、この先 3 年間に渡り 35%の電気料金が値上げされれば、インフレ率は毎年 0.3%上乗せされ、2009 年が 8.1%、2010 年が 7.5%、2011 年が 7.7%となる。

●気候変動

南アは先進国からの支援が得られた場合との条件付きで、現時点に基づく将来の温暖化ガス排出見込み量から 2020 年に 34%、2025 年に 42%の削減を可能とする緩和策を実施することを表明した。コペンハーゲンの気候変動サミットに合わせて大統領府より発表された同目標であるが、専門家は経済成長を犠牲にすることなしにこれを達成することは難しいと見ている。これは、南アの電力不足問題の解決に際し、火力発電所の増設を頼みにしているからである。

●経常収支

中銀の四半期報告によると、09 年第 3 四半期の経常収支赤字は GDP の 3.2%へと過去 2 年間の 7%以上から大幅に減少した。しかしながら、アナリストはこの先の国内需要の回復による輸入の増加によって、この傾向は長続きしないであろうと見ている。不況による南ア国内需要の低迷によって、輸出よりも輸入が先に落ち込んだことが経常収支赤字の減少につながったほか、企業業績の悪化によって配当金の国外流出が減ったことも一因である。

●鉱業生産高

南ア統計局によると、09 年 10 月の鉱業生産高は前年同月比で 8.5%減となり、09 年第 3 四半期の鉱物総売上高は前年同期比で 28.5%減となった。最大の要因はプラチナ需要が 19%落ち込んだことであり、そのほか銅、ダイヤモンド、マンガンの需要も落ち込んでいる。金の生産高も 09 年 10 月に前年同月比で 5.8%減少した。他方、石炭、ニッケル、鉄鉱石の生産高は伸びている。地元鉱山会社は需要低迷、コスト上昇、金属価格安、電気料金値上げ、賃金高騰、安全上の問題などによって、ここ数年来、生産を減らしてきた。昨今の鉱業の GDP への貢献度は 2005 年末の 6%から 4.7%へと落ち込んでいる。鉱業は 50 万人の雇用を抱える産業であるが、国外からの大規模な投資を必要としている。

●鉱山国有化議論

南ア共産党は、既存の南アの鉱物資源の公式な国家的管理以上に、社会主義化を高めていくため、石油資源開発法の改正を求めている。この要求は南ア鉱山国有化に関する南ア共産党と与党 ANC 青年同盟との間の議論を激化させる見込み。ANC 青年同盟は国家主導の国有化を求めているが、共産党はこれが少数エリートの利益にしかない国家資本主義につながるものとして反対しているからである。モトランテ副大統領やマンタシェ ANC 事務局長等 ANC 幹部は同青年同盟のキャンペーンに異を唱えている。

●アフリカ経済成長

米国のコンサルタント会社、Monitor Group によると、アフリカは中国やインド以上に収益をもたらすので、国際的投資家の関心を集めていると指摘している。同グループの Mark Fuller 氏によると、アフリカから出てくる話の 10 のうち 9 はネガティブなものであるが、汚職と失政の数十年が終わり、援助以上に民間投資が増加するなど長期的な希望を持つことができるようになってきたという。ヨハネスブルグはアフリカの玄関口と考えられるが、中心部のビルジャックなど治安面で深刻な問題も抱えている。

4. 広報・文化

●日・南ア交流 100 周年キックオフ!!

2010 年は、1910 年に日本政府がケープタウン在住のジュリアス・ジェッペ氏を日本国名誉領事に任命し、日本と南アが公的交流を開始して 100 年目の記念すべき年となる。

1 日、日・南ア交流 100 周年キックオフ・イベントとして、小澤大使、ダン・プラト・ケープタウン市長、モナ・ブレーシャー女史（ジェッペ名誉領事の曾孫）等の出席のもと、ケープタウンの同名誉領事事務所跡地（ショート・マーケット・ストリート）で、また南ア最古の庭園（カンパニーズ・ガーデン）に所在する石灯籠への記念プラークの除幕式が行われた。この石灯籠は、南米への日本移民船がケープタウンへ立ち寄った際に図られた便宜に対する感謝の印として、1932 年に日本政府からケープタウン市に贈呈されたもの。

1 日及び 8 日にはケープタウンとプレトリアでレセプションが開催され、天皇陛下御在位 20 年を祝うとともに、日・南ア交流 100 周年が正式に公表された。2010 年には日本・南ア両国において様々な交流行事等が企画さ

れている。

●W 杯組み合わせ抽選会

4 日、ケープタウンの国際コンベンション・センターにおいて 2010 年南ア・ワールドカップの組み合わせ抽選会が開催された。日本代表はオランダ、カメルーン及びデンマークと同じグループ E。また、ホスト国の南アフリカはメキシコ、ウルグアイ及びフランスと同じグループ A となった。抽選会は、FIFA 関係者、各国チーム関係者、ムベキ前南ア大統領、デクラーク元南ア大統領、南ア出身ノーベル平和賞受賞のツツ氏、オスカー女優のシャリーズ・セロン氏等が参加し盛大に開催され、地元各紙は「南アフリカは 6 月に開催されたコンフェデレーションズ・カップに続き、壮大な抽選会を成功裏に運営し、ワールドカップ開催能力を世界に示した」と報じている。

●W 杯チケット第 3 期販売状況

5 日、ワールドカップ・チケット第 3 期販売が開始され、FIFA は、販売開始 10 日で約 50 万枚の応募があったことを公表した。内訳は、約 38 万枚が南アフリカ、次いで米国が約 2 万 2 千枚、英国が約 2 万枚、メキシコが約 8 千枚、ドイツが約 7 千 6 百枚、オーストラリアが約 6 千枚、ブラジルが約 5 千枚となっている。第 3 期販売は 1 月 22 日まで。チケット申込書は FIFA ホームページ等で入手可能。第 4 期販売は来年 2 月 9 日から 4 月 7 日まで行われる。

5. 警備・治安

●プレトリア ATM 爆破事件

2 日、プレトリア郊外のオリーベンポートボッシュにおいて ATM 爆破事件が発生した。この爆発により、ATM が完全に破壊され、隣接する民家やインターネットカフェも被害を受けた。犯人らは通常鉱山で使われる商業用爆発物を用いた。

●ケープタウン宝石店強盗

16 日、4 人組の武装強盗が日中、キャベンディッシュ・ショッピングセンター内の宝石店に押し入り、宝石の入ったショーウィンドーをスクリュードライバーで破壊、金品を奪った後に逃走した。犯人グループの 4 人のうち、2 人は逮捕されたが、残りの 2 人は依然逃走中。ケープタウン市内では本年 5 月以降、

カナルウォーク、ウォーターフロント、ガーデンズ等の市内主要ショッピングセンター内での宝石店強盗事件が頻発している。

●サッカーW 杯抽選会場爆破予告事件

4 日午後 0 時 45 分頃（抽選が行われる約 6 時間前）、抽選会が開催される Cape Town International Convention Centre に対して爆破予告があり、警察により同 Centre が一時封鎖され、職員等が外に避難した。警察は、バッグに入れた爆発物を同 Centre に置いて逃走した外国人記者を逮捕した。4 日午前 7 時 45 分、午前 8 時の 2 回、ケープタウン国際空港でも爆破予告があり、警察は容疑者を逮捕した。

●ケープタウン拳銃強盗事件

12 月 20 日の午後 2 時 50 分頃、ケニルワース・ショッピングセンターのスーパーマーケットに拳銃で武装した強盗 2 人組が押し入り、金を要求し、レジ担当の店員に向けて発砲。その後、犯人グループは別のスーパーマーケットに向かったが、ショッピングセンター本部の緊急アナウンスにより他の店はシャッターを閉めて防犯していたため、侵入出来なかった。なお、警備員に追跡されていると気づいた犯人グループは、それぞれ違う方向に逃走した。事件の起きたショッピングセンター付近の通りにて、追跡中の警察車両が犯人の内の 1 人の行く手を阻もうとしたが、犯人は警官 1 人に向けて発砲、警察車両を乗っ取って逃走を続けた。市内の住宅街に逃げ込んだ犯人グループは、警官と銃撃戦を繰り広げた。1 人が警官に撃たれ逮捕されたが、他の 1 名は依然として逃走中である。なお、事件の被害者となったレジの店員と警官の計 2 名は、いずれも手と腕に重傷を負った。

(了)